明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　每月一回一日發行　價六錢

家庭雜誌

第五卷

第三號

明治四十一年一月一日發行

Dai 5 Kan.　**KATEI ZASSHI**　Dai 3 Gō.

山茶花とジヤガ芋……堺　利　彥……一
婦人の三模型……堺　利　彥……二
（貴婦人と家持女房と淫賣婦）
美人と毒婦……深　尾　韶……六
義齒無用論……大石祿亭……八
正月の園藝……久田二葉……一三
西洋菓子の拵方……山田嘉吉……一四
下女の樂に就いて……中尾傘瀨……一六
水道と女中……堀　保　子……一八
轉宅悲劇……上司小劍……一九
女工……山口孤劍……二〇
飼猫ナツメ……大　杉　榮……二三
女學校評論（二）……目黑里人……二五
▲女子大學
婦人界の新思潮……三〇
編輯局より……三一
ローマ字欄……三二

家庭雜誌社

東京市牛込區市ケ谷田町二丁目廿二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

石鹸と洗粉は何れが好きか

壹圓の舶來石鹸よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す

幾百種の洗粉の中にてクラブ洗粉のみは石鹸以上の特點あり

クラブ洗粉は御婦人方は勿論紳士方の愛用もまた盛なり

クラブ洗粉は各地の信用ある呉服店及び小間物店化粧品店にて販賣せられつゝあり

神戸市花隈町間ノ踏切上ル本店
大阪東區北久太郎町四丁目御堂筋角支店

中山太陽堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

登錄商標

すみれおしろい

五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOl ET PASTE
ウヮイオレット煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい●

ねり製 定價（大罎 二十錢 小罎 十二錢）
水製 定價（大罎 二十五錢 中罎 十五錢 小罎 十錢）

ヴワイオレット水製

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成蹟液體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌へを清々しく天然の色白きに至るべし菫『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の場所に臨て衛生上生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京橫濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●西洋洗滌劑 壽美禮あらい粉の特性

●弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

●常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生せず又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

●使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

綠、藍、紅彩蝶番ひ罐詰 六錢五厘
大袋入 二錢
袋入 壹錢

登錄商標
西洋色白くなるあらひ粉

SUMIRE.
Washing Powder

壽美禮あらい粉

製造本舖
東京東兩國
元町兩國橋際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

月刊食道樂臨時增刊

いも菓子製法百種

本書はいもを以て百種の菓子製造法を記したれば直に應用し得る重寶無類の良書也

發行所 東京市麹町區有樂町 有樂社

謹賀新年 中庸堂書店

文學士 倉橋惣三先生編

● **基督教こどもの本** 刷中 大形美本 定價六錢位

どうしたら一番よく小供に基督敎の精神がふきいれられるか編者は此苦心の結果として此本を編す『いらくさ』と題してクリスマス當る事となりました先づ第一に『いらくさ』や新年の贈物用に適當なる趣味ある面白きものを發行する事と致しました是れは子供に極分り易くて基督敎の敎理を説きたるお伽噺にして編者同とじく苦心の兄姉方にこの書が幾分でもお役にたちますなら誠に嬉しき事でありますす以下順を追ふて發行致します即ち第二編は『なみ子のいのり』といふのを發行します

矢島揖子題歌 增野咲子綴 シー、エム、アズバン氏序文

● **シオドル物語** 定價二十五錢 郵税二錢

鈴鹿正一君譯 (Erics Good news の譯本)

● **次郎のおてがみ** 定價十八錢 郵税二錢

佐藤紅綠君作

● **悪魔評定** 定價三錢 郵税二税

葛卷星淵君著

● 信仰餘賦 **いさゝぼし** 定價十八錢 郵税二錢

大關和子著

● **派出看護婦心得** 三版 訂正增補 定價十五錢 郵税二錢

福田錠二君編

● **處女の死と靈魂** 定價八錢 郵税不要

野邊地三右衛門君著

● **純火焔** 定價十錢 郵税二錢

發賣 東京市神田猿樂町廿五 中庸堂書店

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瓦斯引用の大御便利

燈火用
煮燒用
煖爐用
機關用

燈火用・煮燒用・煖爐用の瓦斯管**取付費用**（材料共）は本月より總て**申受けざる**ことに改め「ランプ」代は御自辨とし一燈に付**金九拾錢**以上御好の品を取付け可申又瓦斯竈、七輪、西洋料理器、湯沸器等は御望に依り月賦にて最も割安に販賣可仕瓦斯煖爐は別に損料貸の便法を設け低廉の料金にて御貸渡し可申上候

機關用は「メートル」の位置迄の取附費用を受けず又機關は御便利の爲め英國製最優等品を三ヶ年の月賦にて最も割安に販賣可仕候

●御申込は電話、はがき、口頭にて御通知次第係員出張可仕候

明治三十九年五月

神田區錦町三丁目
東京瓦斯株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

各女學校御用

恭賀新年

美術造花材料

附屬品並ニ製造器械一式

東京市日本橋區横山町壹丁目十六番地

天野卯兵衛

電話(長)浪花一六四三番

切取線

營業目錄御入用ナレバ此切取ヲ添ヘ御申越被下度候

郡　町村

家庭雜誌

家庭雜誌

第五卷第三號

山茶花とジヤガ芋

彦

新年の御新婚、かさね〴〵芽出たく御祝ひ申しあげます。就ては何たがなと御贈物の思案に、とつおいつ致しましたが、フト思ひついて茲に山茶花一枝、ジヤガ芋一籠、謹んで進上いたします。

是は冬子樣を山茶花に、作太郎君をジヤガ芋に見立てた小生の趣向です。山茶花は其色の淡き所、其花の小さき所、其瓣のキチンとせずして折々蕊の變形したる所、殊に其の開き盡してハラ〳〵と名殘なく散る所など、洒落、飄逸の趣きが實に嬉しい。ジヤガ芋も亦、其の薄紅き色、其の何ともなき匂ひ、其の圓からずして而もイビツならざる形、及び其の粘りけなく、甘みうすくホロ〳〵として舌ざわり濃かなる味ひなど、恬澹、淳撲の趣きが中々善い。

妻は山茶花、夫はジヤガ芋、田園の情景眞に掬すべき哉。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人の三模型

（貴婦人と家持女房と賣淫婦）

堺利彦譯述

今日の社會に於ては、貴婦人と家持女房と賣淫婦と、是が婦人の三大模型である。そして其の孰れが果して最惡、最劣、最醜の者であるかは、容易に之を判ずる事が出來ぬ。

貴婦人なる者は、此の商賣制度の今の社會に於て、最も顯著なる特産物である。富裕なる上流社會に於ては、私有財産の思想と、彼の天使白痴説（婦人は半ば天使にして半ば白痴なりといふ説）と結びついて、女子は愈々甚だしく財物視せられ、人形視せられ、其の華奢の風は益々長じて、其の有用の點は益々減少し、遂に完全なる貴婦人と爲り了るのである。

凡そ婦人は、其子を愛育するに勞苦を厭はざるが如く、一般に其の一身を捧げて人を扶け、人に盡し、人を世話するの本能が最も強烈である。然るに、斯くの

如き本能本性を有する婦人の幾萬、幾十萬が、貴婦人と稱せられて多數の召使に册かれ、其の美しき愛の身と心とを空しくして、徒らに上流男子の玩弄となるかと思へば、實に馬鹿々々しさの限である。今の世の『紳士』といふ奴が既に愚劣を極めて居るが、此の謂はゆる『貴婦人』なる者に至つては、更に一段の醜惡を極めて居る。見よ其の愛もなき男子に生涯を身賣して、忽ち笑ひては忽ち泣き、狹量、短見にして虚榮に耽る有樣、眞に憫殺すべきである。

昔し封建の世に於ては、殿樣の御座所が正殿に在つて、それが大名の家庭の中心となつて居たが、今日の社會では、奧樣若しくば令夫人が客室に鎭座ましまして、それが紳士の家庭の中心を成して居る。昔しの封建時代と今の商業時代との對比は、頗る善く此の家庭の變遷に依つて見る事が出來る。昔には粗野な所があつたが、其の代り寛大にして卒直な所があつた。今は華美の風を極めて居るが、其の代り纎巧にして虚僞である。彼の客室の窓掛を見よ、刺繡を見よ、善く其の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

軟弱の態を示して居るではないか。然し此の客室が家庭の中心たる時代も亦た漸く過ぎさつて、次には『茶の間』若しくば『常の間』が之に代つて家庭の中心となるのであらう。

中以下の家庭に於ては、初から『客室』といふ者がない。勞働階級に在つては、婦人は日常必要な人物であるので、之を偶像として別室に飾り立てゝ置く譯に行かぬ。そこで細君は長火鉢の前か何かに座りこんで、膳や、椀や、茶や、菓子や、皆な其の左右に控へて置いて、それで以て男子に仕へる事となつて居る。此の小家庭の有様は、男子は多く戸外に働き、女子は多く室内に働くといふ、寧ろ自然の分業を其の共稼の間に示して居る。

然しながら女子は又一つの陷穽に陷いるのである。彼の貴婦人などに比べて見れば、勿論是れは一段ましめな身の上ではあるが、然し此の家持女房なるものは、實は純然たる奴隷の境遇である。男子は固より何の思ひやりもなく平氣に之を見すごし、女子自身も亦

た久しき習慣の事とて之を當前として居るが、若し深く其の實際を察して善く考へて見たならば、其の境遇の悲慘は迚もお話にならないのである。朝から晩まで立つたり居たり、三度の食事の拵へから拭き掃除洗濯着物の繕ひ、夜具の上げおろし、子供のシヽバヽの世話もせねばならず、其間に亭主の機嫌も取らねばならず、家の中にばかり引込んで、新しき空氣を呼吸する事もなく、珍らしき景氣を見る事もなく、心も弱り氣も疲れて、只だモウ生きた器械となり了るのである。

右の二つ、即ち人形の如き貴婦人と奴隷の如き家持女房とを外にしては、女子の取るべき道は只だ賣淫生涯の一つである。今日までの世の中に於ては、勞働者は皆な其の勞力を賣るの外、生活の方法が無いと同じ樣に、婦人は皆な其の『女性』を賣るの外、生活の方法がないのである。只だ之を生涯一男子に賣切にして正しき妻と呼ばれ、貴婦人若しくば家持女房として家庭の中に閉ちこめられるか、但しは夜毎々々に之を切賣して賣淫婦と呼ばるゝかの別がある丈である。婦人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にして若し、眞に深く之を思はゞ、誰か心中憤りを發せずに在るべき。嗚呼々々、過去幾千年間の婦人の運命は實に斯くの如き者であつた。(中略)

* * * * *

斯く將來を想ひて更に今日の女子を見ると、我々の不快は殊に甚だしくなるのである。彼の人形の如き貴婦人、器械の如き家持女房が、果して善く子を產み子を育てるに足るか。將來の社會に活動すべき、健全なる、活潑なる、聰明なる人民を作り出だすに足るか。或は運動の爲に、或は勞働過度の爲に、或は不自然なる奢侈の生活の爲に、或は缺乏甚だしき貧苦の生活の爲に、婦人の身體は到る處に病弱の相を呈して居るではないか。之に加ふるに、其の智識の不足と交際の狹小とは、遂に一般婦人をして愚痴の人、因循の人、神經過敏の人、甚だしきはヒステリー性の半氣違の人と爲らしめて居るではないか。

試みに玆に我々の理想する新婦人の一班を云へば、體格强健にして智識に富み、活潑にして獨立の氣象を

有し、多く戶外に出でて、自由に人に交り、多少の勞働にも從事して男子と並び立つ者で無ければならぬ。

然らば則ち今の柔弱華奢なる貴婦人の理想が、自然消滅に歸すべきは明白の事である。思へ今の貴婦人が只だ玩弄的に男子の尊敬を受くる事を。席を讓らるゝも、手を引かるゝも、乃至は如何なる助を得るも、皆な是れ婦人の弱きを明かにして之を憫笑するのである尊敬でもなく、同情でもなく、實に憫笑輕侮である。憫笑輕侮の上に親切丁寧の皮を冠せたまでの事である猶ほ今の貴婦人なる者が、其の服裝に於ても、其の言葉遣ひに於ても、其の行儀作法に於ても、一々嚴重なる批評の下に立つて、少しだも習慣に違ふ事を許されぬのは、即ち彼等が其の表面に於て尊敬を受くるが如きに係はらず、實は束縛の身、服從の身、奴隷の身たる事を示すものである。今の進步したる婦人にして若し眞に深く之を思はゞ、直ちに其の貴婦人の理想を棄てゝ、寧ろ直ちに女らしからざるの行爲態度を取るべき筈である。斯くてこそ彼等は始めて眞の自由の婦人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

となり、紳士たるを好まざる眞の男子の友となるであらう。

兩性の交りが只だ肉慾の關係でもなく、主從の關係でもなく、眞に男女相助け相補ふの意義を有すると云ふ事は、少しく心ある者の皆な考へる所である。尤も婦人の體力が一般に少しく男子に劣る事、或種の事業には婦人が殊に適當なると同時に、或種の事業には寧ろ不適當である事などは、是れ亦た何人も異議のない所であらう。然しそれらの差異は只だ、男子が或る特殊の點に於て婦人を助け、婦人が或る特殊の點に於て男子を助けるといふ丈の事で、其の相助け相補ふの意義に於ては、全く對等の地位に立つのである。此に於て今の中以上の社會に於ける、稍や進歩せる婦人は、漸く自己の地位を自覺して反抗の態度を示しはじめたのである。

次に家持女房に至つては、眞に奴隷の如く、眞に器械の如く、日夜間斷なく驅使せられて、未だ容易に自覺の域に到達せぬが、それでも社會自然の進歩變遷は、猶ほ遂に彼等を驅つて解放に近づかしめるのである。堀井の代りに水道も出來た、炭薪の代りに瓦斯も出來た。婦人が如何に保守的でも此の便利を認めぬ譯に行かぬ。家家の煩累を減ずるの希望は生じて來た。臺所縮小論も出た、公立洗濯所の案も出た。飯炊配達會社の計劃さへ起つた。家持女房が少しく自由を得るの道は明かに示されて來た。是が更に一歩を進めて、臺所の事は必ず婦人のするものといふ思想が取去られて、男子も少しづゝ之を分擔する事となり、其代り婦人も少しづゝ外に働いて賃銀を得る事となれば、茲に男女間の平均も保たれ、眞に相助け相補ふの實が生ずるであらう。

第三には彼の賣淫婦であるが、是こそは到底今の社會組織の下に於て救ふ事の出來ぬものである。無智なる婦人、貧困なる婦人、無職業の婦人の在る間は、之を滅絕するの法は無いのである。故に之を救ふの道は、社會主義の革命に依つて社會の大變化を遂げ、男女に係はらず經濟的奴隷を全廢するより外はない。

斯くの如くして、將來の自由社會に於ては、今の婦人の三大模型、貴婦人も、家持女房も、賣淫婦も、皆な悉く消滅するであらう。（カーペンター氏著書中の一節）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美人と毒婦

深尾韶

美人と毒婦、これは離るべからざるもの丶様になつてをります。講談物のお家騒動から降つては日々の新聞紙上に散見する三面種まで、大抵の毒婦は美人と相場が決つてゐる様です。

小學校や高等女學校の修身科の教科書を見ますと、瀧鶴臺の妻などが頻りに推奨せられて『容貌より心』とか何とかいふ格言の下に、美人排斥論、醜婦奨勵論が中々盛んです。

心理學者も犯罪學者も此事に就いては餘り我々の滿足する様な說明を與へてくれません。けれども物の本にも談り草にも斯様な實例が澤山に與へられてゐるので、自分はモウ此事に就ては世人同様何の疑ひも挿まず、毒婦は必ず美人、美人は必ず毒婦(若くは餘り感心せぬ女)とやうに心得て居りました。

然るに或時フト自分の教へてゐる子供の上から考へ

て、ドウも此の定義は當つて居らぬのでは無いかと思ひました。それは、私は多年の間小學校で少女を育て丶をりましたが、其内には隨分美くしい子も數々ございました。それで、それらの子どもの心理は十分私にわかつてをりましたが、此の美人に屬する子供の十中八九は皆極めて善良な性行を有つてゐました。或者は推理の力に缺けて居たり、或者は國語の技に拙かつたりはしましたが、友達に親切な、意地惡や邪推といふことを知らぬ、善良な品性といふことに於ては殆んど一致して居るのでした。自分は世間の美人排斥論、醜婦奨勵論に對して此の現象を甚だ不思議に感じましたので、更に氣をつけて種々な方面を研究して見ました。で、先づ醜婦といふ側、可哀想ではありますが容貌の宜しからぬ、鶴臺の妻君も跣足で逃げさうな、そして修身教科書著者の理想の婦人たるべき者の卵、器量のわるい子供の日常の行動や心ゆきを長い月日の下に調べて見ました。ところが其結果の意外なことには自分ながら驚いたのです。これらの子供は『容貌より心』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どころか、容貌も心もメチャ〳〵で、猜忌、嫉妬、意固地、殘忍、その他將來婦人の惡德たるべきもの、多くの質量を遺憾なく具へてゐたのでした。私はソコで又、美人にも非ず醜婦にもあらぬ並一通りの子供を注意して觀察しましたが、これらは各々其面の示すが如く、德性の上に別段の缺陷も無く又長所も無いことを知り得ました。

　私どもは多年の經驗上、敎育を受けた子か受けぬ子かといふことを一目で見判けることが出來ますが、それと同時に今度は此調査に依つて德性が完全な子か缺陷のある子かといふ見判がつく樣になつたのです。即ち、美人は善人で醜婦は惡人であるといふことを知り得たのです。サア此うなつて來ると全く判らない。何故に敎科書はアンナ嘘をついて美人を擯斥するか。どういふ譯で古今東西に現はれる毒婦には美人が多いか思ふに水平線下の醜男醜女が、眞似ても及ばぬ苦しまぎれに、タマサカ起る美人の毒婦を捉へ來つて、毒婦は凡て美人なり、美人は皆品性の下劣なる者なりとコ

ジ付けて了つたに違ひない。

然し、よく〳〵調べて見ると、これは嘘でもコジ付でも無かつた。自分の敎へてゐる子供の內でも、上級の稍年長女生には既に此解釋がチャーンと現はれかけてゐる。私は之を見て漸く成程と悟ることが出來たのです。

　一體人間といふものは生れ付は誰でも善でも惡でも無い並一通りの心を有つてゐる。それで心と容貌とは離るべからざる關係を有つてをつて、心が直ぐ顏に現はれ顏が直ぐ心に響く。それで誰でも普通に育てられれば、心も顏も普通の人が出來る。若し或點に特に敎育の心が用ひられて德性などが異常な發達をする時に容貌も異常な發達をして玆に美人といふものが出現する。又或點に敎育の缺陷があつて精神に不足な所を生ずれば容貌も不足の所が出來るし、器量がマズクなれば從つて精神も其影響を受ける。つまり心と顏とは始終並行して進んで行くのだ。けれども此狀態はソウ長く續くものでは無い。心は十歲になつても十五になつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ても、それから巧く陶冶さへして行けば二十になつても三十になつても、未だ教育の可能性を備へてゐる。即ち未だ冷え切らぬ搗立の餅と同じく自由の形に教育し發達して行く可能性を有するのです。ところが顔面身體の筋肉といふものはモウ大抵の時に固まつてしまふ。成人期に達すると共に形式が略ぼ固定して了ふ。それで今度は容貌と心理との不並行を來し、甚だしきは全く相反する樣な始末になるのです。

不幸にして美人は甚だ誘惑の多いものです。それが爲に折角今まで圓滿に發達して來た品性が徐々として墮落いたします。そして幾多の苦き〳〵經驗は遂に彼女をして捨鉢の酢でも蒟蒻でも食へぬ人間となり了せしめます。これが彼の毒婦となつてアッパレ一世を蠱毒するのです。之に反して醜婦は、切めて心でも善くせねば生存がむづかしい所から、自然に自己を教育して次第に善人に反るのです。

されば美人毒婦論は謂はれなきことではありませぬけれども唯其結果を見たばかりで醜婦奬勵論をやることは甚だ怪しからぬ次第です。私は寧ろ美人奬勵論をやつて、そして一方には此の美人を墮落せしめぬ方法を講じ、墮落せずとも濟む社會を現じたいと思ます。

義齒無用論

大石緑亭

○余が茲に論ぜんとするは、齒科醫術全體に立入つて之を無用なりと言ふのではない。大凡齒の痛みを治し腐蝕を止むるなどの手術は素より止むべからざるものであるが、唯余が無用なりとして排斥するは、主として虚榮心の爲めにする義齒なるものである。

○斯く言はゞ或人は抗辯するかも知れぬ、義齒の要は決して虚榮でもなく贅澤でもなく、實際の必要によるものであると、而して其必要なる理由を尋ねて見ると第一、容貌の美を保つ事、第二音聲と言語の爲にする事、第五消化機能の一部なる咀嚼を全ふする事などである。然るに右の内第一の如きは稍必要なる理由とも見られるが、其他のものに至つては從來あまり過大に言ふらされて居る樣に思ふ。實際齒が拔けてもその拔けた當座は多少發聲に不便を感ずるかも知れぬが、少しく之に慣れて來ると一向差支を覺えぬ樣になる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○余が自分の經驗によると初めて義齒を入れた時には齒が拔けて居るよりは遙かにものが言ひ惡くい。余は殆んど二十年前に前齒を失ひ、米國と日本の齒科醫をして前後三回まで義齒を作らせて見たが、何れも不快に耐えられずして三日も辛抱せずに之を外して仕舞ふた。而かも此齒の拔けた口を以て一人前の談話も爲しマヅイながらも演說もやつて居るが、辯舌の上手下手はさて置き、之が爲に言葉が洩れるなどの困難に出逢ふた事がない。又或人は齒が拔けたら直ぐに胃病患者にでもなるかの如く仰々しく言はれるが、實左ほどの害を及ぼすものでない。現に斯く申す余は僅かに六七本の齒を以て、質に於ては隨分硬き物をも嚙み量に於ても決して人に負けぬ程のものを食ひつゝあるが、之が爲に未だ消化器病に犯された事を覺えぬ。

◎これは如何なる理由によるかと言ふに、人の生命は掛替のないものなれど、身體を組成する各部の機關は代用物又は代償作用とも言ふべきものがあつて、一つの物に缺損を生ずる場合は、之を補充するの道が備へ

られて居るのである。假令へば心臟の瓣膜に異常ある時は自然と房室の或部分が擴張して其害を避けしめんとし、又或血管を結紮する時は俄かに其近傍のものが發達して之が代用を爲すのである。それと同じ樣に齒が拔けたる人は齦や舌や唇が特別の發達を爲して發音と咀嚼を助けるに至るは多くの人の經驗に照して明白なる事實である。

◎全體西洋から輸入せられた所謂文明の事物は、其内にコケ威しの部分が多くして初心のものは買被り易い弊がある。齒科醫の手術室なども此類でキラ〱光る道具やクル〱廻る機械などを見せられると、大抵のものは先づこれに感心して齒の痛みなど即座に忘れて仕まひ、斯の如き場所で義齒をはめて貰へば、恰も自分の口から生へて來たもの丶如く都合よく感ずる。

◎然るに今日の義齒と言ふものは其技巧の上から見て決して成功したものでなく、甚だ無理なるものを強て嵌められて居るのである。余は多くの齒科醫に就き彼等が僞らざる自白を聞いて見たが、何れも現時の義齒

は何處かに無理のあるもの邪魔なるもの、而かも止むを得ずして之を作るのであると言ふ。尚ほ此義歯を嵌められた人に聞いて見ても、それが最初から旨く適合したと言ふは殆んど稀有の例で、多くは非常の不快と苦痛とを辛抱し到底義歯は辛いものと觀念し、漸く其不便に慣れて終にこれを感せぬ樣になるのである。併しこれでは終に口に義歯を嵌めるのでなく、義歯に口を嵌める樣なものである。

◎斯の如き義歯を用ふる結果は直接に歯齦や口蓋を刺激して局部の焮衝を起し、間接には危險なる腦症や神經痛を發するなど、之を詳細に並べ立つれば其害の及ぶ所は決して歯の抜けたるが爲めに生ずる消化不良や發音不完全などの比ではないのである。而かも一般の人情をして物を買被つたり人に騙された事を他に風聽する事を恥ぢ、多くの價を拂ふて無益の苦痛を買得た事を秘し、自ら歯科醫の失策を埋沒して仕まふのである。

◎今の世に於ては虚飾と言ふものも强ち無意味なもの

でもない。假令へば若き男女がその異性に戀ひられんが爲め、或は商人が顧客の機嫌を取らんが爲めに義歯を嵌めるのは、紅粉を粧ふ事などゝ同じ類として必ずしも尤むべき事でもなからう。併し乍ら年寄の歯が抜けて壯年者の如く咀嚼し能はず食ひ能はぬ樣になり行くは、恰も冬の木葉が落ちて淋しくなるが如く、寧ろ自然の成行ではないか。然るに此自然に逆らふてまでも容貌の美を保たねばならぬか。余は老人が義歯をして居るを見る毎に一種不快の感を起こす、彼の白髪を染めて出陣した老武者の事や小皺を白粉に隠して人の氣褄を取らねばならぬ女性の事などを聯想して、少しも之を美なりとは感せず、却つて不自然なるもの、悲惨なるもの、又不憫なるものと思ふのである。

◎余は人の身體が何時までも强壯でなければならぬと言ふ事は大なる疑問であらうと思ふ。但だ宗教や哲學の見地から、人の生命は五十年や百年で盡きるものでない、と言ふならば余は敢て之に反對せぬ。而かも肉を喰ふたり骨を嚙むやうな體軀が此まゝ何時までも續

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く筈はなく、不老とか永世と言ふ事は遙かに異なつた意味の命に就て言ふた事であらうと思ふ。

◎終りに臨み、義歯と經濟問題に就て少しく述べんに余が親友なる歯科醫某、目下京都にありて盛んに其手腕を揮ひつゝある人から近信の内に『貧乏人は咀嚼を要すべき粗食を取らねばならず候故最も義歯の必要を感じ候生活保障の理想期には義歯不必要論の價値ある時と存候如何にや』と言ふ文句があつた。成るほど、これも亦一理あるの説とも言はれるかも知れぬ。併し乍ら今日の義歯の代價は如何、歯科醫等か必要なりとする粗食者則ち貧民の購ひ得る所であらうか、否、余は之を以てあまり〳〵高價に過ぐるものと思ふ。昔より見かけ取りをする野師と言はれた歯抜屋の面影が今の歯科醫の習慣にも就ほ殘つて居て、仕事に不相應の報酬を貪る風がある。特に金を材料とする充塡法や義歯製作に至つては、之に要する原料費と手數料の外、特に金であると言ふ事を理由として過當の代價を要求するは、恰も時計屋が仕事の難易に係らず、金時計の直し賃を格外に高くする様なもので、苟くも醫師と言ふ職業に對し甚だ卑しき事と言はねばならぬ。

◎要するに今日所謂文明國の人は、義歯の價をあまり過大に認め、實際の必要と効能の有無を考へず妄りに之を稱揚して居る様に思ふ。而して假令へそれが或塲合に必要なるものとするも、之を購求し能ふは一部上流人士のみに止まり、大多數の貧民は到底これに與かる事が出來ぬ。到底今の義歯なるものは小數富豪の虚榮心を滿足させる一種の贅澤物とも云はれるであらう。

前號目次

▲安心のいろ〳〵（堺利彦）▲予の想望する自由戀愛（大杉榮）▲僕の此頃の生活（堺利彦）▲女子の特性と教育（深尾韶）▲グリンランド市の家庭園藝會（久田二葉）▲カレーの話（大石祿亭）▲下足札（上司小劍）▲媒妁の感（中尾傘瀬）▲原宿生活（西村渚山）▲狂言戲語（猿男）▲秋の一日（荒畑寒村）▲戀に醉へる友に（小山田つや子）▲女學校評論（一）實踐女學校（目黒里人）▲雜誌のぞき▲新刊紹介▲ローマ字欄

正月の園藝

エデンの花守

◉冬の七草

植物學者伊藤氏によりて前年選定された冬の七草は次のいろ〳〵であります。皆冬又は春早くから咲き、花の美くしいものばかりで、從來の春の七草が、嫩葉を食用にするのを主として選定されたのに對し、之は觀賞を主にしたものであります。

▲蕗　ふきのとうのことであります。雪の中から土くれ割つて出た眞黃色のふくよかな姿は、更によき香氣と味ひとを持て居り、美くしいことも御存じの通です。

▲節分草　矢張春早く咲くもので、七八寸の梗を抽き白いぱッちりとした花を咲きます。少し山がゝつたところでなければありませねど、極く美くしいものです。

▲福壽草　東京では緣日に澤山持ち出され、安く賣られるものですが、之を四五月實蒔きして種々に變り咲きさせると、白、紅及び撫子咲、二段咲なども出來て

變化に限りありませぬ。

▲雪割草　可愛らしい葉を秋から萠やし、二三寸の梗を其の間から幾本も出して紅白の五尖花を仄めかします。其の美くしく優さしい姿は寧ろ氣高いくらゐです。

▲寒あふひ　花は冬春の間根元に咲く褐紫色で小さく葉にかくれてみえませぬが、其葉は馬蹄形で斑のあるところが面白いのです、一種の香氣があつて庭の一隅などに植えて置きますと、四時枯れないで雅致あるものです。

▲寒菊　これにはいろ〳〵あれど、黃赤のを十月頃挿して置き、鉢に取つて小さく仕立てたのは面白い。

▲水仙　誰れでも知つて居る草花ですれど、近來は支那水仙や西洋水仙など、いろ〳〵のが輸入されて居ります。

◉春の七草

七種粥に入れ、また摘んでしたし物などにして食用される野の草で、春の野の摘草の栞として次に解說しませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲せり(芹)　濕めつたところに多けれど八百屋へ出るのは畑で作つた岡せりといふのです。五月頃白い小花を咲きます。

▲なづな(薺)　菜の葉を小さくしたやうで、花は白くて極く小さいが實は軍扇形に出來ますから、ペンペンぐさ又は三味線草とも呼ばれて居ります。

▲ごぎよう(御形)　これは母子草又はチツチコといはれるヨモギに似た白い柔い毛のあるものです。花は黄色で美くしい。

▲はこべ(蘩蔞)　例の小鳥の飯になるハコベのことですが白い小さい五瓣花は四五月へ行かねば咲きません。

▲ホトケノザ(佛座)　これはタビラコ又は土器菜といふものゝことです。紫の小花を二三月から咲く小さい草です。

▲スズナ(菘)　菘の一種唐菜を春の七草に用ゐる時の名ですが、今では蕪菁を用ゐて居ります。

▲スゞシロ(淸白)　大根を春の七草に用ゐる時の名で、鉢に植込むには、細根大根の先端を切つたのか、

又は廿日大根を用ゐると妙です。

◉花園と菜園

暖國ならばイザ知らず、普通雪のある時節ですから室内でムロ咲物か常綠の盆栽を賞するに過ぎませぬが、又た處によりいろ〳〵の課業が殘つて居ります。

▲草花や蔬菜の種子の整理。

▲花卉や蔬菜植付又たは播種の計畫。

▲肥土製造、霜除の手入等。

▲温床、温室、ムロ内の手入など。

▲促成栽培の用意、早作り物の播種等。

▲菜類豌豆、蠶豆の中耕と肥培。

▲苺の藁敷と雪除、肥培、グスベリー。

▲慈姑、葱の收穫及貯藏。

新刊紹介

▲●●●●簡易生活(第二號)　基督以來の大人格と呼ばれ、現代唯一の偉人と稱せられ、輕薄なる日本の文士仲間に神の如く持てはやされたるレオ・トルストイに冠するに「現代の高慢狂」なる文字を以てし、縱橫に罵倒したる小劍氏の文、最も見る可し。(芝白金三光町其社)

西洋菓子の拵方（一）

山田嘉吉

西洋菓子の種類は無慮七八百もありまして、其拵方を別々に一々覺える事は到底出來ませぬ。そこで、私は系統的にすぢ道を正して、總ての菓子の拵方を五種に分けて、此の五種さへ善く善く飲み込めば、どんな菓子の製造にも決して差支へる事のない、極めて重寶な六方を御話致します。其の五種の法と云ふのは、

(一)Sponge cake.
(二)Pound cake.
(三)Chocolate éclaire.
(四)Lady finger.
(五)Kises.

(一)スポンジ・ケーキ

▲材料

(一)卵　一ツ。
(二)砂糖　かろく一卓匙。

(三)麥粉　山盛に一卓匙。
(四)ベーキング、ぺーダー　一卓匙の六分の一。

▲方法

(一)黄鉢を取出し、底の方を暖め、手の觸られない程あつくする。
(二)熱くした鉢の中へ砂糖を入れる。
(三)つゞいて卵を入れる。
(四)之れを善く肉叉にてたゝき、白色になるまで充分にたゝく。
(五)レモン皮或は柚の皮を、わさびおろしにすつて入れる。
(六)之れに麥粉にベーキング、パーダーを入れたものを篩ひ入れ、善く掻き廻はす。
此の掻き廻はし樣は、上から下へかきまはし、決して味噌をするやうに縱に丸くかきまはす勿れ。このやうに麥粉をこねあげたものをばドーと云ふ。
(七)このドーをブリキ製の菓子燒箱に入れて燒く。

▲燒き方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(一)ブリキ製の箱は前以てよく洗ひ置き、油氣のあるものを用ゐる勿れ。

(二)箱の底に紙を布いて、その上にドーを入れて、オーヴンの中へ入れて蒸す。此の紙には油をひいても善し。

(三)火の加減は、大抵、紙一枚をオーヴンに入れて見て、凡そ五分間で其の紙が黄色に焦げる位をよしとする。火が少し強いと思ふ時には、上にも紙を一枚かぶせて燒くが善い。

(四)燒けたか燒けぬかを知るには、耳のわきに取りあげて見て、グツ／＼音がするうちは、未だ燒けないのである。又、楊枝を中へさして取り出して見る時に、水が其の先に着いて來なければ、善く燒けたものと見るが善い。

(五)燒けた時にオーヴンから取り出し、其の儘にて冷す。冷めたら箱から出して、其の上に砂糖をぬる。

▲砂糖を塗る法

(一)三エキス印の上等の砂糖一杯に、沸湯一卓匙を

入れ、善くかきまはしてなめらかにする。其のかたさは糊位にする。

(二)レモン又は他の香料を入れる。

(三)之れをスポンジ・ケーキの表面に、うすく流し塗る。

應用

▲Jelly roll　スポンジ・ケーキを厚さ七分位に平たく燒いて、表へジエリーを塗つて、其の塗つた所を中にして海苔巻鮨す巻くやうに巻く。巻いた外側になる方が、餘りよく燒けると、崩れ毀れる事がある、注意す可し。

▲Layer cake.　スポンジ・ケーキを丸く平たく作り、之れを二つ重ねて砂糖をぬる。砂糖の塗りやうは、たゝのスポンジ・ケーキに同じ。

▲Strowbery cake.　レーヤー・ケーキの重ねた中間にストローベリーをはさむ。

▲Charlotte russe.　レーヤー・ケーキの重ね目に、ホイプド・クリームをはさむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下女の樂に就いて

中尾清太郎

あゝ『下女！』この語既に充分賤劣侮蔑の意を藏して居るが、今は適當に改正すべき新造語を看出さぬから、暫らく從來のまゝを襲用して、余が談話を始めることゝする。

余は家庭に於ける下女の位置に就いて、斯ういふ考を持ッて居る。下女は雇人、他人に違ないが、其取扱、寧ろ位置に於いては、矢張わが家族の一員でなければならぬ。併し之を下女の側より要求さしては甚だ拙い。さうしては其家に於ける干係が、必ず冷なくなるから、これは初より其家族の側に於いて、已の家族の一員を迎ふる心持で、下女を迎へなくてはならぬ。さうすれば家と下女との關係は極めて圓滿に結ばれて、更に妥に進み行くものがあるに違ない。但こゝに困難なることは、世間の下女雇入の風が其通りでないから、家族扱ひを受ける下女の方で、何となく落ち付かず、却ッ

て遠慮のあまり、苦しい思をするやうなものもある。尤も暫らく其家に居馴れゝば、さういふ勝手もわかッて來て、安心するであらうと思ふ。然も教育のないが彼等の常なれば、平日に於いて善く導いてやることを怠ッては、遂に手に合はぬことになるも知れぬ。つまりは我子を注意するのと別段變ッたものもないのである。さうすれば下女も幸で、其家も下女の爲に更に幸を增すであらう。

余が家にも一人の下女が居る。彼女は余が家に來る迄に、二ヶ所家を變へて働いたものであるが、さきの家の風も、余が家の風とは、餘程違ッてゐたものと見えて、當座の間は頗る勝手がわからず、極まり惡るげに振舞うてゐた。先づ余が眼を惹いたのは、余が外からでも歸ッて來たとき、或は偶然下女の前に顯はれたとき、彼女が若し爲すべき用なくして手を休めてゐたならば、彼女は非常にあわてゝ、彼女自身何か或仕事を始めむとする動作である。例へば今休息してゐるを寧ろ慚けてゐたと咎めらるゝ風に、忽ち有り合ふ雜巾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

でも箒でも取り上げて、いそ／＼と立ち掛けるのである。これは余に於いて、可笑しくもあり、氣の毒にも感せられたから、其後機を見て、説法して聽かせてやッた。下女だからとて、休息は必要である。仕事のない時には遊んでゐても、ぼんやりしてゐてもよい、その樣な殊更らしい働振は、誠に見悃いから廢めよといふのであッた。それからも尚數回其樣なことがあッたが、一月ほど經つうちには全く改まッた。次に余が注意を起こしたのは、下女の食事の時である。初は極まり惡るく思ふからと察して、彼女が食事の時は、余等家族の者は避けて、彼女唯一人をして、爲さしめて置いたのであッた。それは他の家々に於いては、『吾家の下女に飯を何杯喰ふ』とか、『よく喰ふ下女だ』とか、と云はれる時に、下女は最も苦しい思をするといふことを聞いてゐるから、其遠慮の無からむことを願うて、初は彼女が欲するらしきまゝに任せて置いたのであるが、余等の方は其樣な、いゝいゝさもしい考の無いことが、種種の事情より彼女に知られたならば、いつまでも彼女

唯一人をして食事を取らしむることは、隨分温みの無い仕方で、必ず淋しからうと思ひやッて、時々無禮講で食事をも倶にすることにした。さうすると彼女も亦之に馴れて來たやうである。斯うして余が家の下女は、次第に余が家族の一員に化りつゝある狀態である。

さて茲に新案として、わが讀者諸君と共に諜りたいのは、以上の如く居馴らした下女にしても、性質大人しきものは、尚遠慮勝ちである。人は眞實を以ッて丁寧に待隅してやれば、やるほど益々遠慮勝ちになるものである。無教育の下女と雖も然りで、決して叨りに増長するものでない。若し眞實愛してやッて、恩を仇で返すやうなものがあッたならば、それは彼女に其樣な歪けた性癖を養ふまでに至らしめられた他の原因があるので、直接其下女の罪ではあるまい。又此方にして云へば、まだ人に及ぼすだけの感化の徳の足らぬゆゑであらう。

それで先づ普通の下女ならば――甚しく善良の天性を損はれてゐぬ限りのものは――居馴れて來るに隨ッ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、懐いて來る。懐いて來るゝ、いぢらしくなツて來る。こゝで何卒して彼等にも彼等相應の娯樂が與へられてあツて欲しくなツて來る。

即ち之を如何したらばよいか。旣に家族の一員と認めた以上、「娯樂に就いて」と云ツて特別の詮議も要らないやうではあるが、此方で家族と見てゐても、何分彼方でも他人なればと遠慮したがるものである。實際彼方で遠慮した方がよいこともあるのであらうし、又遠慮して貰ツた方が此方で都合のよいことも時としては無いでもない。それが余が家でも、夜の時間は大抵下女に與へて、讀書するなりと、手仕事するなりと、其自由に任せてあるが、日曜も彼女の爲に全く與へやうかと考へてゐる。現に日曜の朝だけは安息日學校に通はせてあるが、これは喜んで行く。尙日曜の午後の時間と、一日とか十五日とかといふ臨時の休みに就いても、善い仕法と、それが有益になツて、眞に淸き娯樂に價するものであツたならば、疾く與へてやりたいがと、此日頃考へてゐる所である。試みに記して、大方の讀者諸君の實驗談、又名説をも聞きたい。

女中と水道

保子

▲私どもでは水道がありませんので、其の不便に堪えかね、家主へ水道設置の談判をしやうと思ひまして、先日先づお近所へ同盟を申込みに參りました。すると大概の奥樣の仰せらるゝには、宅には女中が居りますから、水道がなくとも別に不自由を感じません、と云ふので御座います。私はアキレ返つて二の句もつけず、其のまゝ引き下りました。

▲成程、水道があらうとなからうと、炬燵の中から頤先きで人の子をお指圖めさるお身分の奥樣には、何のおさはりも御座いますまい。けれども若し此の奥樣方が、一と朝でもよう御座います、此の邊の高臺の深い深い車井戸の、釣瓶の繩にお手を觸れて御覧なすつたら、たとへ、其方達が如何んな無慈悲な方であらうとも、あのやうな御言葉は、二度とお口になさらん事と思ひます。

▲それに就いて思ひ出しますのは、近所の或る家の女中さんが、折々宅の前の共同の井戸端へ出て來て、しみ〴〵と嘆いておいでの言葉で御座います。

「こちらでは猫の事までもナツメさんナツメさんと、さん附にしてゐらつしやるのに、私の所ではたゞ梅！梅！と私の事を呼び附になさるのだもの。ほんとうに、女中なぞと云ふものは、猫にも劣りますのね。」

私は生來の動物好で、猫を可愛がつて飼つてゐるので御座います、けれどこれを聞きましてからは、何だか自分が罪惡でも犯してゐるやうな氣が致します。

▲女中を奴隷視した永い間の習慣は、今急に其の根底から改めろと云ふわけにも參りますまいが、せめて其の名を呼ぶのにさん附にする位は、どなたにでも容易に出來る事と思はれます。如何で御座いませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

轉宅悲劇

上司小劍

三年ばかり住んで居た白金の、我等の住居としては割合ひに大きかつた家を見すてゝ、下澁谷の、道の傍の、塵埃の立つ貧乏長屋に移つた時は、流石に悲しかつた。モウこの家で寢るのも今夜限りだと思つて、前日の十一時ごろ枕についたが、容易に眠られない、この家に住つてからあつたこと、これから先きのことなど、いろ〳〵と考へてゐる中に、十二時が鳴り、一時が鳴り、二時が鳴つて、三時の鳴るのは流石に聞かなかつたが、うと〳〵としたかと思うと、モウ夜が明けた。直ぐ起きて、先づ井戸端で水を浴びる。この井戸の水を汲むのもこれきりだなぞと、また考へる。家のものは僕よりも先きに起きて、裏の畑に植えてある苺の苗を拔いて居る。來年の夏にはドッサリ赤い實を生らさうと思つて居たのに、今頃急に植え換へては無事に育つか何うかわからぬ。苺こそ良い迷惑だ、意久地の無い人に植えられた不運と諦めよ、と口の中で苺に謝した。四疊半の我が書齋に入つて、本箱を片付けかけたが、何んだか氣が進まぬ、中止して跡のこと一切を家の者に頼んで、逃げ出さうとすると、家主の細君が、お菓子を持つて暇乞ひに見える、近所の誰れ彼れが來る、一軒おいて隣りのお婆アさんなぞは、オイ〳〵と泣いて居る。僕は急いで外套を引ッかけて逃げ出したが、門を出るとまた名殘が惜しまれて、引き返へして庭へ入ると、僕の一昨年手植えにした小さい松が、『私も連れて行つて下さいよ』と云つたやうな風で手水鉢の傍に立つて居る。それで直ぐそれを引き拔いて、今丁度籠に瀨戸物をつめて居る女中に渡して、枝を折らぬやうに持つて行けと命じて、今度こそはと急いで門を驅け出して、銀座の勤め先きへ行つた。

午後の五時ごろ、品川まで電車で、それから先きは汽車で、澁谷の新宅へ行つて見ると、荷車の來やうが遲かつたさうで、まだなか〳〵片付いて居ない。玄關と六疊と三疊との長屋で、その狹い所へ荷物がだらしなく持ち込まれた狀は、前の家の物置きを少し廣くしたやうなものだ。僕は妻と顏を見合はせてホロリとした。子供は狹い椽端に立つて、『先づ上野へと急がんか』と歌つて居る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女工

山口孤劍

某年某月某日、余は水道橋畔に立てり、そは秋の夕なりき。

灰色の霧は重く沈みて、牛天神の森は黑き松と黄なる銀杏を色別する能はざる鳶色に暮れゆき惡魔の尾を曳くが如き砲兵工廠をつゝみつゝ『夕』の聲のいかに、慘哀の極みなるよ。

余は橋の欄干に身を凭せて立てり。

海老茶の袴穿けたる女學生と稱する女も行けり、前垂の小僧も行けり、洋劍いかめしき軍人も行けり、車力の掛聲高く法被の勞働者も行けり、あゝ此の橋上の人々、憂愁の酒に胸をいたましめつゝあるもあらん、歡喜の花に若き血を躍らしめつゝあるもあらん、悲哀よ、痛恨よ、歡樂よ、希望よ、江戸川の水の泡沫のかつ消えかつ結ぶ人の子の運命のはかなさよ、君見よや、人生の劇曲は收めて此の橋上に在り。

余は尙ほ橋の欄干に身を凭せつゝ立てり。

余が眼に映じたる一人の女工あり。

顏は青白く光さめて陰鬼の翼の如き黑き勞働服に、病める身をつゝみてか、とぼ〳〵と其の歩みも重げなり。砲兵工廠の滊笛は宛も勝ち誇りたる暗黑界の魔王が凱歌の如く、陰悽なる悲鳴をつゞくるに非ずや。

余は叫びぬ。

オー『罪惡的建築物』!!!

『勞働神聖論』其は猛き狼に糧を供して、病める小羊を鞭つ、紫衣の博士と長き袍の法師に一任せん。人類よ暫く人情の靈眼に汝が良心の絕叫を聞け。今日工塲に於ける女工の勞働は生涯の鮮血を器械の前に賣るにはあらざるか。娼妓と名けられたる女奴と同じく、資本家の快樂の爲めに血と汗を賣却せるにはあらざるか詩人と稱する冷血なる骨董品は、女工を歌つて『籠の鳥』といふ。されど思へ、籠の鳥は健康あり慰藉あり病に罹りながらも鞭たれながら勞働を强いらるゝことなき也、食ふべく糧あり、寢ねんとすれば寢床は供

へらる、貧苦を歎きて自ら殺すことなく、憂悶の焔に胸を燒かれて狂を發することなし、君よ、籠の鳥は彼の女工の如く賣淫も墮胎もなさゞる也、あゝ女工は身も心も傷き疲れたる哀れなる籠の鳥にはあらずや。

石の妖怪と、木の惡魔と、鐵の毒鬼が相群りて初めて工塲といふ魔宮を作り出したる也、女工は其の人身御供として器械のもとに投げられたる犧牲也、彼の恐ろしきバスチルの牢獄も、戰慄すべき西班牙のエスキユリアルも、今日の工塲と比較して何れか慘酷暴惡なるべきぞ、ユーゴー先生は叫べり。

『器械は人類の理想なるも、工塲は獨斷の結晶体也。』

君よ、今日の社會は女工が器械の犧牲となる戰慄すべき事實を名けて『文明の進歩』とは云ふなり。

彼女が我が眞の妹ならば、余は如何にすべき乎てふ聲は嵐の如く我が胸をかきみだしぬ、余は我が愛する妹の傷けるを見つゝ、今日の工塲制度を讃美すべき乎、あらず。

余は敢て世の志士仁人に問ふ、此の傷にいたみ飢に泣くあはれなる女工は、たゞ悲しき顔する宗敎と、笑ひ興ずる藝術に依つて救はるべきか、咄々、我れは之を信せず。

旅人說つて深淵にころび落ちんとする時に一莖の藁も力をこめて握るとかや、貧苦の斷崖に足を失せんとする時、一莖の藁にも等しき僅かなる賃銀も、彼女は生命の親と思へる也、あゝ前髮の花はづかしき少女の身に生れ、恐ろしき器械の下に、激しき勞働に從ふを好むものあらんや。

余は女工のことを思めつゞけて橋の欄干に凭つて立てり。

夜の說敎師は黑き鞭を投げたり、聖童の眸にも似たる星はいや黑き空に、輝きいでぬ。

新刊紹介

▲●●●みすゑ（第十九號） 畫としては大橋正堯氏の「落葉の煙」と云ふ目の覺めるやうな水彩畫、文としては丸山晩霞氏の「水彩畫を學ぶの順序」及び木下藤次郎氏の「初學者の繪」等あり。水彩畫を學ぶ者の爲めに好伴侶なる可し。

飼猫ナツメ

大杉榮

▲昨年の春、僕が富久町の別莊に閑居してゐた時、加藤病院から可愛らしい子猫を一疋貰つたと云ふて、保子君から猫の繪はがきを送つた來た。それは、高い襟をつけて、卷煙草なぞ口に啣へた、なか〳〵ハイカラな猫であつた。此の別莊では、嚴しく喫煙を禁じてあるので、煙草好であつた僕は、半ばヤケ氣味に、次のやうな負惜しみの返事を出した。

『あの猫は、何だか棒ッ切の先から煙の出てゐるのを持つてゐるが、あれが物の本で見る煙草とか云ふものなのだらう。今迄は人間の食物だと聞いてゐたが、ではなくて猫の玩弄品と見える。』

▲其の後、ナツメ某と云ふ人から、着物だの、書籍だの、辯當だのと、時々に差入がある。住所は、麴町區元園町由分社内とあるけれど、由分社にそんな人がゐるとは嘗て聞いた事がない。『ナツメ君？誰れだらう。』とは、其の折々に僕の頭を惱ます問題であつた。けれども、兎も角も差入物だけは、有りがたく頂戴してゐた。

▲其の中に、僕も別莊からお暇が出たので、早速由分社を訪れてナツメ君に面會を求めた。すると驚いた。ナツメ君とは、加藤病院から貰つたと云ふ、彼の小猫の事であつた。會つて見ると、雉子色の、圓く肥つた善くジャレる、元氣な、併し、まだ爪を藏す事も知らぬ程の、無邪氣な、ホントーに可愛らしい小猫であつた。其の惡戯さ加減は中々はげしいので、程經ての事ではあるが、或る日、寒村君の疳癪玉を破裂さして、奇麗に鬚をはさみ切られて仕舞つて、ぼんやりと仕てゐた。

▲やがて、此のナツメと云ふのが、彼の有名なる『我が輩は猫である』の著者、夏目漱石君の名と發音を同じうすると云ふので、由分社に往來する人々の間に、大ぶん有名な猫となつたは善いが、それが爲めに遂に一大事件を惹起した。昨年の夏、社會黨の人達が電車賃値上反對のチラシを配る爲めに、隊を組んで市内を歩るき廻つた事があつた。其の日、之等の人達は中食をする爲めに、由分社に立ち寄つた。そしてナツメ君を見て、『ア、之れがあの有名なナツメさんですか』など、云つて、皆してナツメ君を玩弄にしてゐた。する

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、翌日の或る新聞紙に、どうこれを聞き違えて探訪が報じたものか『漱石夫人社會黨のチラシを配る』と、麗々しく書いてある。サア大變だ。それでなくとも、由分社では飼猫に漱石君の名を冒さしめてゐると、大ぶん非難の聲が擧りかゝつてゐた矢先だもの。堺君は、直ぐに其の新聞に取消文を送つたけれど、之れでもまだ物足りぬものと見えて、更に本誌の第四卷第七號に於て、之れが辯解を試みた。

▲後、由分社が解散して、堺君は柏木の方へ行き、保子君は僕と同居する事となつた。そしてナツメ君は、保子君が連れ子として携へて來た。之れよりして、僕とナツメ君とは、甚だ親密なる間柄となつた。

▲僕等が、今の家に移轉して來た時、家主はナツメ君のゐる事にはとんとお氣が付かれず、たゞ子供がないからと云ふので五十錢だけ家賃をまけて呉れた。所が惡戯盛りのナツメ君は、少しも遠慮をしない。障子は破る。襖は引裂く。疊は掻き切る。これでは、こんどの移轉の時に、家主に家の中を檢分されて、前にまけたゞけの家賃をみんな返して呉れなど丶云はれはしまいかと、些か心配してゐる。

▲ナツメ君は、斯の如く、惡戯に於ては天下の猫に負

を取らぬかも知れぬが、猫としての職分、即ち鼠を捕る事は甚だ不得手である。天井に鼠の騷ぐ音でもすれば、他の猫ならば先づ耳をそば立てゝ、奴ッと睨みつける所だけれど、ナツメ君は小さくなつて、家人の膝の間に顔をかくす。偶々二三寸位の小鼠でも捕へれば鬼の首でも獲つたかのやう、誇り顔に家中を跳ね廻つて見せて歩るく。其の外によく捕つて來るのは、蝿、蟋蟀、芋虫、蛙、守宮等である。先日は、何處からか小さな蟹を捕へて來たは善いが、足を剪まれたものと見えて二日程跛をひいてゐた。

▲ナツメ君は又、食物の點に於て、甚だしく他の猫と異なつてゐる。猫に鰹節と云ふ言葉があるやうに、猫は鰹節を以て、其の最好物とする筈のものと聞いてゐた。然るにナツメ君は、餘り之れを好まない。そして海苔を此上もなく好む。鮨を見せても、魚のついたものよりは、先づ海苔卷の方をとるのである。其の他、そば、うどん、芋類、胡蘿蔔、牛蒡、豆類、鹽煎餅等は大好物である。面白いのは、牛肉などを食べる時、二片か三片目毎には、必ずカブラか大根の漬物を與らなければ承知しない。

▲ナツメ君は、家人の誰れにも彼れにも、よく懷いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐる。けれども、其の懐き方は、其の人によつて夫れ夫れ違う。空腹の時には、必ずお勝手掛りのお絹孃の膝にシガミ付いて、ニアーニアーと甘えた聲で何か強請る。そして、少し腹が脹れると、火鉢の傍に坐つてゐる、僕の膝の上に來て、居眠をする。僕は、いつでも箕踞をかいてゐるから、一番寢心地が善いのであらう。今も僕は、膝の上に眠つてゐるナツメ君の耳を、左の手でソツと引張りながら、此の文を書いてゐるのである。併し、僕とても、さう〳〵永く坐つてゐられるものでない。偶には小便にも行かねばならぬ。可哀相とは思ふけれど、止むを得ず、ナツメ君をソツと下におろす。するとナツメ君は大きな欠伸をしてウーンと伸をしながら、妹の春子君の編物してゐる手に、チヨツカイを出す。春子君は大の猫嫌なので、アラーと大聲を擧げて救を求める。ナツメ君は又、これが面白いものと見えて、益々チヨツカイを出す。夜は、必ず保子君の床の中へ這つて、一所に寢る。

▲所が、此の頃は、曉方までナツメ君の姿を、保子君の床の中に見ない。いろ〳〵詮議して見ると、ナツメ君は、今正に初戀の甘酒に醉ひつゝあるのである。相手の女は、お定りの近所の三毛である。一體、ナツメ

君は頗る付の美男子であるのだが、此の三毛は又、頗る付の醜婦である。美男おとこにお多福女房とよく云ふが、ナツメ君夫婦は即ち夫れである。人間と云ふ愚なる動物は、戀愛を以て恥辱でゝもあるかのやうにして、こそ〳〵と所謂人目を忍んでは樂しみ合ふ。猫は此の點に於て、遙かに人間より進歩してゐる。三毛さんは、日に幾度ともなく、臺所へ來てはニアーニアーとナツメ君を呼ぶ。流石に女は女だけあつて、三毛さんも聲だけは優しい。ナツメ君は、これを聞くや否や夢中になつて飛んで行く。そして、二疋して何處かへ遊びに行く。ナツメ君は又、何か家に御馳走のあるときには、必ず三毛さんを呼んで來て、二疋して一所に食べる。可愛いゝぢやないか。

▲と、更に後を書き續けやうとすると、又三毛さんがお迎に來て、何處かへナツメ君を連れ出して仕舞つた。僕も、此の邊で筆を擱かう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校評論

（二）女子大學

目黒里八

◉新時代の面影——無造作に散らした髮を思ひきり幅の廣い、沈靜な色合のリボンで、キチンと束ねて、稍高く穿いた海老茶の袴の輕快なのに、小さい靴で高田村の廣い眺望の好いグラウンドを思ひ切り快活に跳廻つて居る、女子大學附屬の少女を見る度に、吾人はそこに來るべき新時代の面影を朧げながら認め得るのである。

彼等の眼には社會の舊感情、舊習慣から來る嫉妬の焔も映らない、彼等の耳には淺劣な新聞紙の惡口も聞えない。——といふと記者が只女子大學の光明な部分ばかりを見る樣だが、之は、本鄉の森川町や、四谷の傳馬町や、牛込の神樂坂や、神田の御茶の水あたりで好く見る、頭の上から爪の先まで、間色好みの、十町も二十町も先きから人の視神經を激しく刺擊して、挑む樣な、媚る樣な、怨える樣な風俗をした女學生を見た眼で、霜日和の紺藍色の空に煙るが如く枝を擴げた欅や、榛の木陰の、新鮮な空氣の中で、「女らしく」といふ恐ろしい社會の桎梏を離れて、活潑として遊戯に餘念のない彼等に接した時に起る瞬間の感情に過ぎないので、よく見れば、彼等の眼にもヤハリ憐れむべき「恐怖」の情がある。「苦悶」の影がある、さりながら何といふても目白に多少、新鮮な、自由な空氣の動いて居るといふ事は爭はれない。

此の如くにして養はれた少女が、大學の本科を卒業して、雜司ケ谷の森、高田の關、なつかしい、追懷の深い母校の門を出る時、果してどんな女性に造られて居るであろうか、彼等は此過渡社會に於て先づどんな運命に相遇するであろうか。サアこれがそも〳〵興味ある問題である。

◉時代の悲哀——成瀨校長も案外頑迷、固陋であるとか、案外保守主義であるとかいふ批難は隨分一部の『非良妻賢母主義』者から聞く處である。

けれとも夫は別問題として、兎に角此女子大學の英文科などを卒業した女子が、他の師範學校、高等女學校の卒業生などゝ違つて「指定敎育」の頑固なナショナル、プレヂレクションや、フォールス、パトリオチズムから離れて、一度、綺麗に掃除された彼等の頭腦に、新しい人生の或るものが來て、深い印象を止めるのを待ち設けて居るといふ狀態がアリ〳〵と見える。換言すれば、用意深き成瀨仁藏君の敎育は彼等が母校を捨てると共に非常に深い信仰、情熱、感興を以て、自巳の志す處に向つて積極的態度をとるといふ處までは導

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かない。

けれども從來社會の偏見、迷妄の夢から覺醒せしめて、更に深い、新しい人生の海に漕ぎ入らんとする、憧憬の情を生じ得べき、其消極的の點までは導いてある。

そこで卒業生の或る者が結婚したい、例へば親の命令なり、先輩の媒介なりに何等の苦痛もなく、煩悶もなく滿足して結婚したいといふ塲合には、女子大學は大に喜んで、出來得る限りの便利を與へてやる。コヽが成瀨君の甚だ聰慧な處である。

けれども一部の學生、多少才氣のある學生は先づ、社會の舊習慣、舊道德、舊感情の奴隷を以て滿足する事が出來ない。彼等は意志なき結婚を嫌ふ。良妻賢母の職務に忠實なる事を甚だ多く望まない。けれども彼等はそれを明言する丈の勇氣を有しない、明言したが最後家庭に於ては「不孝の女」となり、社會に於ては冷嘲熱罵の標的となるからである。そこで彼等は何とか云ひぬけて結婚を避ける。結婚をのがれる。

けれども人生の春は短かい、一度結婚の期を失すれば、彼等は再び容易に其機會に遇ふ事はないのだ。家庭の風波、妻女の悲嘆といふ様な事を聞いた時には、自ら慰めもしようけれど、同窓の友、曾ては自己の才色共に彼女の上に在りと自分も許し、人も許して居た、

其同窓の友が早くも結婚して、樂しい家庭を作つたとか、子を産んだとかいふたよりを聞いた時に、うら若い處女の何として寂寥に堪えられよう。

かくして女性の煩悶は來る。

曾ては「木の葉の落ちるのを見ても笑ふ」と云はれた年頃の處女が何とはなしの悲哀を覺えて夕ぐれの雲の色にも、深き思ひを寄せて、中心無限の落莫に、我れ知らず涙が流れるといふ樣な事になる。然うなると家庭に居ても父母のすゝ事が一として面白くない戸外に出ても見るもの聞くもの一として憂ひの種ならざるはない。かくて此模型の女性は皆相率ゐて教會の門に向ふのである、彼等は既に古きものを失つた。新しき或るものを得んとして群に放れし小羊の如くさまよふ彼等にとつて「文部省檢定濟」以上、少しく新しき道を說く牧師の雄辯は、丁度白紙の上にインキが印せらるゝ如く、彼等の胸に、何とはなしに「或る響き」をもたらすのである。

彼等の智識は無論淺薄なものである。卒業生が成瀨君の倫理の講義を、神の垂訓の如く渇仰して毎週一度宛、聽講に出かけるといふのに徴しても、海老名君や松村君の演說を女子大學の卒業生が淚を流して傾聽するといふ事實に徴しても、彼等の智識の程度は推察される。

けれども記者は彼等の苦悶には同情する、何となれば彼等の苦悶は時代の苦悶である、然り十九世紀末の社會といふ大背景を後に控へた時代の苦悶である。け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れども彼等は自分の後にある大背景を意識して居ない
之が女子大學卒業生の模型である。
●學校の設備。圖書館の不備――女子大學といへばもう名稱からして、或一部の頑迷者流の嫉視と、憎惡とを挑發するに足る。殊に過渡時代の彼等學生には一方から考へて隨分社會の批難に値するような點が無いのでもない。女子大學は此點に於て、輕薄なる世間の冷嘲、惡罵の的となつた。

殊に上流社會の一部が女子大學に反感を有する事は面白い事實である。上流社會は其「お孃さん」なる者を「華族女學校」に送るのを誇として居る。「華族女學校」といふ處は上流の娘の結婚の豫備學校であつて、此學校の教師は大抵所謂「高等幇間」もしくは「高等桂庵」とも稱すべきものである。之等の高等桂庵は皆其熊鷹眼を以て卒業生の結婚の媒介を事として居る。即ち本郷の「帝國大學」の事務員、清水某の如きは之等の桂庵と內外相呼應して、所謂「花よめ、花婿」の撰擇に日もまた足らざる有樣である。思はず話が横道に入つたが、かくして上流は華族女學校を以て日本女學界の最高學府と獨合點をして居た。處が目白臺の宏壯な煉瓦門には「日本女子大學」といふ如何にも高くとまつたような標札が揭げられたから、虛飾と傲慢の結晶たる上流は一寸燒餅氣味になつて來た。記者は其娘を華族女學校に通はせて居る上流の一夫人なるものが或新聞記者的の口吻を以て女子大學の惡口をいふて居るのを聞いた。けれども如何に女子大學の惡口をいふて居る彼等でも、一度內部に入つて親しく其設備の完全して居るのを見るときは、殆ど意外の嘆を漏さない者はない。

去年の秋、記者が一張羅の洋服をつけて女子大學の運動會を觀て居た時、隣席に居た日本鐵道會社の重役として有名な某資本家は「世間ではハイカラ、ハイカラといふて批難するけれども、ハイカラも此處まで來ると、何とも感心の外はない、や、どうもハイカラに限る」といふて嘆じて居た。凡そ世間で無暗に女子大學といふ名を聞いたばかりで憎惡、嫉視を事として居る連中は、一度此學校の門を入ると共に此資本家と同一の嘆を繰り返さなければならぬ。

けれども此學校に缺けて居るものは圖書館だ、成瀨君の經營的手腕を以てすれば、遠からず圖書館の設立を見るに至るべきは元よりであるけれども、臆病なる彼が果して、斷然たる見識を以て、世間の愚論を省ず、一般の女學生にあらゆる圖書の自由閱覽を許す可きか否やは甚だ大なる疑問である。閱覽圖書に制限を附する位ならば初めから圖書館なんかを設けぬが好い、圖書館は學校の裝飾ではない。

記者は將來幾年の後、裝飾氣のない、淸楚な、沈靜な色合の洋服に、靑黑色の幅廣のリボンで髮を束ねた、近眼の處女がブリユー、ストツキングの姿甲斐〴〵しく、幽林蕭條たる高田の雪を蹴出て、ヘーゲルの哲學を語り、ヒユヒテルの科學を論ずるの日近きにあらん

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

事を希望してやまないものである。

●成瀨仁藏君の成功と其朦朧主義――何人でも、曾て成瀨仁藏君が、橫濱の教會の學校で僅かの少年を集めて教鞭を執つて居た頃の事を知つて居る者は、彼が今日の成功に喫驚せざるを得ないであろう。けれども此急激なる成功、――現世に於ての成功の裏面には又非常な經營的手段を要すべき事は言を俟たない。

記者は敢て森村市左衛門を語らざるべし、〇〇〇〇を說かざる可し。けれども彼が如何に現在の成功にあまりに急なるが爲に、其主義を朦朧の中に葬り、其方針を曖昧の中に埋て、淺薄なる世間の感情に媚び、習慣に投じて、愚なる恐怖、愚なる顧慮、愚なる調和に、愚なる日を送りつゝあるかは殆ど想像の外であらう。けれども臆病なる事彼の如くでなかつた以上、とても今日の如き成功を見る事は出來なかつたに違ひない。

例へば成瀨仁藏君が自ら學生に訓諭して天外、風葉の小說ある所以を以て「讀賣新聞」の購讀を禁止したるが如き、彼の無見識といふよりも、寧ろ彼が一部世間の頑迷者流に媚ぶるの甚しきに驚かざるを得ないではないか。

更に一例を擧ぐれば、曾て英文科の一學生が、戀愛を歌つたロマンチシズムの詩集を出版した時に、恰も世間の盲評家の間に淫靡文學の聲の高かつた頃であつたので成瀨君は豫め慮つて其著者に退校を命じた。之は幸にして世間の或る階級が「文學」と「學生」に對して非常な憎惡心を抱持して居た時であつた爲め、あまり問題にもなら

ないで葬られたけれども、公平に考へて見ると隨分奇怪の處置といふべきであろ。

猶、更に一例を擧げて見ると、彼は元來基督教の信者である。けれども彼は自ら基督教徒なりと稱する事の、學校の經營上、世俗の感情に對して甚だ不得策である事を慮つて、自ら基督教徒といふ事を出來得る限り曖昧にしようと努めて居る。(基督教徒の資本家に對しては無論此限りでない。)彼は之でも安心する事が出來ない。一歩進んで彼は佛教信者として有名な三輪田眞佐子なんかを、此策略の爲に講師として聘して來た。經營の策略が講師撰擇の標準であるとすると、幾千の學生こそ好い面の皮である。此の如く事業家、經營家、策士のする事は常に、世間一般の習慣、感情を推量して、彼等の批難に先じて、自ら彼等に阿諛する事ばかりを努めて居る。

近い話が去年の秋の運動會には黃色新聞紙の鼻息を窺つて、男學生の入場を嚴禁した。記者は此日幸にして一張羅の洋服を着用して行つた爲、門前拂の凌辱を免れたけれど、幾多の男學生は、入場券を持ちながら遠慮なく追ひのけられて居る。此の如きは實に淺見短慮の極ではないか。當局者は何等の標準を以て女學生に害のある男性を識別したのであろうか。野口男三郎君は決してこんな處へ木綿のカスリなどを來ては來ない。

只事業の功にばかり腐心して、其心の昏醉を來して居る成瀨君は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時によつて、美貌の女學生を撰擇して、巧みに給仕女、乃至は藝妓の代理を務めさせるではないか。勿論之を今日の社會から見た時には別に不思議はないようであるけれども、良妻賢母主義以上、人間としての立派な氣品と理想とを鼓吹すべき學校の門内に於て、さりとは何たる醜態ぞや。如何に大隈、高田、鎌田、尾崎の諸君、卿等が一夕女子大學に會して「婦人問題」を談ずるの時、最も研究を要すべき眞の婦人問題は近く卿等のテーブルの前に演じ出されて居るではないか。

◉絕大なる人道問題——凡そ奇怪なる問題は女學校寄宿舍の舍監が人權を無視し、人道を蹂躙して、妄りに女性の『信書の秘密』を訐く事である。勿論警察の力を藉りて敎育を行ふべしと公言する本多庸一君の如き宗敎家の出づる時代であるから、かゝる破廉恥非道の行爲が、徒らに監督、敎育の名の下に公行せらるゝのも不思議はないけれども、苟も文明の敎育家として、如何に男女の風俗の亂れた時とはいへ、此處致が果して正當の監督法であろうか。女子大學は此信書開封主義の先鋒である。

成瀨君、君は何時專政君主の權利を獲得したのか、君は何時戒嚴令下の警察官となつたのか。君は信書秘密の人權を侵害しなければ子女の監督は出來ないのか、如何なる不正の行爲でも愚なる世間と黄色新聞紙の沈默して居る事なれば敢行するのか。

成瀨君、君は戀愛の外に人生の秘密を認めないのか、人生の事實を知らないのか。

◉結——成瀨仁藏君は事務家である、經營家である、策士である。君の手腕は君の德に勝てり、君の經營は、君の主義を沒せり。女子大學は舊思想、舊習慣の奴隷なるが如く又新思想、新制度の渴仰者なるが如し。時に賢妻良母主義を標傍し、時に自由敎育主義を主張する。

されど外形の成功は此の如くにして驚くべき速度を以て進行した。何人と雖、親しく其整頓したる内部の設備を目擊したものは、恐らく女子大學なるかなの嘆を漏さゞるを得ないであろう。けれども校長成瀨仁藏君の女子敎育に對する曖昧主義、朦朧主義、御都合主義に失望したる人は、内容未だ整はざるを知る共に、其學生の依て以て世俗の憎惡を買ひ、嘲笑を招く短處缺點の由來する處を知り得るであろう。

慶應の小幡君はもう死んだ。さすれば尾崎行雄君か、鎌田榮吉君か、兎に角、女子敎育に對して最も合理的な理想と法案とを持する人を撰んで學監の地に立たしめ、成瀨君は自ら退いて學校の經營的方面に努力するのが、其個人性に忠實なる所以ではあるまいか。記者は時々恁んな事を思ふ。（完）

▲前號の實踐女學校に對する批評は多少當事者の注意を促したるらしく十二月十日下田歌子の學生一同に對する嚴肅なる訓戒は其結果甚だ見るべきものあり。記者は當事者の寬懷を多とす。猶記者は同校寄宿舍監時任某の事に就て甚だ多くを知れり、校長たるもの宜しく時勢に鑑みて、速やかに改革の實を擧げ再び記者の筆を煩はしむる事勿れ。▲次號には「成女學校」を評隲す可し。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●婦人界の新思潮

(前月著社の諸雜誌より)

▲『婦人の新理想』(小山東助)氏は「先づ差別を超絶する、否寧ろ總ての差別の中に、共通なる心理の作用と性格の類似を認むるが故に、歐米婦人の現狀を以て、日本將來の女性を推すの誣妄に非るを信せんと欲す」と前置して、歐米に於ける婦人解放運動を詳述し、更に先年巴里に開かれたる新婦人大會の決議に解説を加へたり。今、其の大會の新婦人の要求する所を、轉載紹介せんと欲す。

大會の目的は明に英米佛三國に於ける婦人運動の理想を表示したるが、其の方綱は二種に分たる。

▲(第一)は政治上の權利を要求するものにして窮竟の理想としては、女子は男子と同樣の權利を享有せんとする志望を抱けども、方今特に要求する所は、職業撰擇の自由と、選擧權の獲得とを其の主要なる者とす。即ち一方に於て、裁判官たり辨護士たるの權利、最高學位を得るの權利、其他總ての官職生業に於て男子と同樣に之れを撰擇し得るの權利を要求すると共に、他面に於て先づ殊に國會議員の選擧權を獲得せんとす。

▲(第二)に此の社會的政治要求に對して、家庭的經濟的要求とも名くべき一種の理想なり家庭的經濟的要求とは何ぞや。新婦人運動の指導者は思へらく、男女家を成して兒女を擧げたりとすれば、そは夫婦の有たると同時に國家の有なり。家庭の有たると同時に社會の有なり。國家社會が兒女の鞠養に關して責任を有するは條理の當然として、何人も許容する所たらずんば非ず。然るに現今の社會狀態は此の公共的責任を全然放棄して、兒女鞠養の全責任を其父母に任す。故に父たる男子は兒女の爲めに、而して同時に國家社會の爲めに、養育費の全部を負擔し、母たる女子は亦兒女と國家社會との爲めに、全力を養育の勞苦に濺ぎて猶ほ且つ秋毫も國家社會より報酬を得るは無し。男子の地位は暫く別問題として、之を婦人の側より見るに、兒女を養育するは决して自己の利益の爲めに非ず。只兒女夫自身と國家社會との爲め也。而かも婦人は

經濟上良人たる男子に依賴し、その與ふる所を擧げて兒女の養育に資するを以て、自己の教養發達は全然不可能事たり。富者にありては素より餘裕の用ふ可き者ありと雖も、一般の貧者特に多くの兒女を有する婦人に取りて自己の進歩は只空想中の歡樂に止る。是等の婦人は單に餘裕の用ひて自己の爲めにす可き者なきのみならず、兒女と家庭の爲めにす可き者すら、常に乏しきを告ぐるを以て、畢に良人に依賴する能はずして、自ら出でゝ勞働に服し、若しくは内に在りて金錢を作るの道を講ぜざる可らず。茲に於てか其心身を勞すると益々過大にして、本來の職分たる兒女の養育すら等閑に附するの止む無きに至る可り、家庭の歡樂も亦全然夢想たらざるを得ず。文明國婦人の大多數は、斯くの如き苦痛の生活を營みつゝも、自ら救ふ所以を知らざる也。然るにかゝる苦痛の根本は何の原因に基く乎。曰く母たる婦人が國家社會の爲めに心身を勞苦して、而かも之が爲めに報酬を得ざれば也。總ての勞働中、兒女の鞠養に勝りて尊貴なる勞働あらんや。婦人は之を敢てして秋毫も報酬を得る能はずとせば、是れ神聖の勞働に對する無法の虐待に非ずして何ぞや。國家社會は之を閑過するが爲めに、多數の母た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る婦人を泣かしめ、多數の憐れむ可き兒女をして健全の發育を遂げ得ざらしむ。是れ實に國家社會の一大罪惡と謂ふ可し。故に國家が兒女の養育料を其母親に給與するは、至當の義務ならざるを得ず。

是れ新婦人運動者の一大主張として絶叫する所頗る痛切なる眞實として、抽象的には予の如きも賛同を禁じ得ざる心地する也。（新人十二號）

氏は最後に論決して曰く、『日本婦人にして混沌たる現代の生活に滿足せざる限り、その根本的人生觀に就て、その性格典型に就て、若くはその權利、使命に就て何等か嶄新なる理想を得ざる可らず。多少の教育と經驗とを有する婦人は、今日未だ其の要求を有せずとするも、明日は必ず覺醒して、自ら之を要むるに至るならん。既に醒めたる歐米婦人の先蹤は、斯くて來る可き新時代の日本婦人を啓發すると極めて大なる者あらん』と。予は更に之れに一言を加ふるの要を見ず。

編輯局より

▲烏兎匆々、明治三十九年も暮れて、茲に又新らしく四十年の春を迎ふる事となりました。私どもは過去の一年を追懷して、其間諸君が終始與へ給ひたる厚き庇護を思ふて、眞に感謝の念に堪へませぬ。

▲今後の本誌は諸君の御注告の下に、樂しんで讀む可き記事の分量を殖やして、議論がましきものは餘り取らぬ方針に致すつもりであります尚此外にも本誌の體裁材料等については常に工目を凝らして逐號改善を行ひたいと心掛けてゐますが何卒、讀者にも御心付次第ドシ／＼御意見を御申越し下さることを希望致します。●

▲昨年の十一月廿九日、越中の正満又七君が訪れて來て下さいました。君は家庭雜誌初號以來の愛讀者で、賣藥の行商を仕て居らるゝ方であります。御互に紙の上にこそ久しき間の友なれ、まだ見も知らぬ人を訪ねて下すつた其の御厚意何と御禮を申してよいやら判りませぬ。自分が斯く嬉しく思ふと同時に、正満君も非常に滿足して下さいまして、話は一時間二時間と、それからそれに面白く打續いたので御座いました。

▲地方に在す讀者諸君。若し何かのお序ありて上京せらるゝ事もあらば必ず御立寄り下さることを希望致します。私どもは諸君の御話によりして地方の事情を解するの便利を得、又本誌編輯上に必ずよき參考を得ること多からんと信じます。のみならず、諸君の御來訪に接することは私どもに取りて甚だ嬉しき慰藉であります。

▲在京の讀者諸君。諸君も亦た前に記したる如く御來訪あらんことを切に／＼希望いたします。もし諸君と社中同人と都合を計つて或は茶話會、或は演說會などを催はしたなら更に一段の面白さ有益なる事であらうと思ひます。實は過般王子の　讀者から讀者茶話會を催すといふことで其の御通知がまゐりましたので、誌上にも掲載し記者も出席してお話でも承はらうと存じたのですけれど、例の内分社解散、雜誌休刊といふ騒の最中だつたので、とう／＼それもそれなりけりになつて了ひました。これは折角のお催はしに對して何とも相濟まざる次第でございました。併しそれからは社中も整頓してまゐりましたから、チトこんな事でもやつて見たいと思ひますが諸君の御考へも伺ひたいものです。夜も長うございますし、一二ヶ月も經ちますれば陽氣も良くなつてまゐりますから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

KATEI ZASSHI DAI 5 KAN DAI 3 GO 4907 NEN, 1 GATSU 1 NICHI **RŌMAJI RAN**

(Kono ran wa Fukao Shō ga kaku.)

Romaji Hirome-Kwai no Konogoro.

Rōmaji Hirome-Kai wa konogoro öyaku kappatsuni undō o hajimeta. Sōkai wa 2 kai hirakare, Enzetsu kai wa 1 do hirakare, kisoku wa kaisei o shi, Monbu Daijin ni mukatte wa Shōgakkō no kodomo ni Rōmaji o oshiete kudasai to kengi o suru shi, Rōmaji no kōshūkai wa hirakareru shi, sono undō ga nakanaka omoshiroku natte kita.

Kōdo Kokugo Kai.

Amerika ni hajimete tetsudō ga kakatta toki, dojin ga, sono sakanni kuro-kemuri o agete hashitte kuru kisha o mite, ōmukade ga arawareta to odoroki sawaide, naka ni wa kisha ni temukai o shita mono ga atta to yū koto da.

Rōmaji Hirome-Kai ga katsudōshi hajimeta ni tsurete, ganko, yaban, Amerika no dojin ni mo otoranu, mesaki no kikanu oibore-domo ga yori-atsumatte Kōdō Kokugo Kai to yū mono o koshirae, "Tōrō no ono" no yomaigoto o narabete Rōmaji ni hantaisuru to yū. Shini-kakari no genki wa homete yaru ga, sono bakasa kagen wa masu ni mo hakari ni mo kakatta mon ja nai.

Me o Akete Miro!

Me o akete miro, yo wa dore hodo susunde iru ka o! Doits, Rosia no kuni de sura jibun no kuni no moji o sutete Rōmaji o tsukaō to shite iru yononaka de wa nai ka. Shina de sura mo Rōmaji ni shiyō ka to kangaete iru yononaka da!

Nippon no kotoba to gakumon to o hattatsusaseru tame ni Rōmaji o toraneba naranu koto wa ronzuru no ga yabo da.

Rōmaji ni hantaisuru yatsu ni Rōmaji no seishitsu ga jūbun ni wakatta mono ga aru ka!?

Azabu no Zabu.

A.—"Azabu (Tokyō no Ku no na) no Zabu to yū wa donna ji datta nē?" (麻布)

B.—"Hotei (布袋) no Hote no ji sa."

KATEI ZASSHI,

the Home Magazine, Monthly.

Office: 22, Ichigaya Tamachi Nichome Ushigome, Tokyo Japan.

定價	
一部	金六錢
六ヶ月前金	三十二錢
一ヶ年前金	六十錢
（何れも郵税共）	

廣告料	
特別一頁	十圓
普通一頁	七圓

▲本誌は毎月一回（一日）發行とす。

▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵劵代用ならば五厘切手で一割増に願ひます。

▲御注文の時は必ず何卷何號より何號まで何册の前金と明瞭に御記載を願ひます。

▲御手紙には必ず住所姓名をハッキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。

▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。

▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵税を申受けます。

明治四十年十二月廿八日印刷
明治四十年一月一日發行

東京市牛込區市ヶ谷田町二の廿二
發行兼編輯人兼印刷人 大杉榮

東京市京橋區日吉町十番地
印刷所 近藤商店

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目廿二番地
發行所 家庭雜誌社

大賣捌所 上田屋 東京堂 良明堂 東海堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

速かに大懸賞附きの本誌を求めよ後るれば一年の悔あらむ

見落す勿れ

婦人世界

後るる勿れ

正月元旦發行 毎月一回 二巻第壹號 一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共九拾錢 一年分一圓七拾五錢

口繪

◎梨本宮の御家庭◎伏見若宮の御家庭◎新年の松(御題に因める美麗無比の彩色畫)村田丹陵◎彩色畫跡見花蹊跡見女學校の内部◎名家の新婚寫眞◎清國の美人◎新年の松(和歌)三輪田眞佐子筆

婦人必讀有用文字

娘時代の生活法 村井弦齋

△婦人の一代は如何なるものぞ
△婦人は何を目的とすべきか
△美の神とは如何なるものぞ
△外形の美は如何にすべきか
△顏は如何に美しくすべきか
△耳は如何に身體と關係するか
△眼は如何に美しくすべきか
△口元は如何に美しくすべきか
△音聲は如何に美しへすべきか
△鼻は如何に美しくすべきか
△鼻は如何に養生すべきか

◎九十歳の長壽を保てる我が祖母の健康法……藤田清子

◉新年大懸賞珍附錄

本號にあり 見落す勿れ！後るる勿れ！

△賞品 △婦人持十八金金側懷中時計一個△十八金寶石入金指環十個△繻珍帶側一筋△白縮緬一反△銀側懷中時計二個△金帶止△絹張洋傘△置時計△羽ショール△用簞笥△化粧品千餘點

◎かるた取りの名人實驗談(奇抜)……
◎顏の形と髮の結ひ方(新橋お愛の實驗談)
▲丸顏に似合ふ髮▲長い顏に似合ふ髮……
◎西洋婦人の生産……(山田産婆)
◎結婚の前に忘れてならぬ事(榊博士)
◎私の感心せる女學生……三輯田元道
◎見合ひ(小說)……村井弦齋

◎婦人の肥滿を治す奇法 醫學博士……木村德衛
◎婦人の晴衣は何が似合か(趣向清新)
◎弦齋夫人正月料理談……
△珍らしき汁粉と雜煮△雛鮭の料理……
◎玩具の選び方……醫學博士加藤照麿
◎名家結婚年齡調べ◎年齡を當てる法
◎少女欄(少女諸君のお相手として本欄を設く)

發兌元 東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社 (郵便振替貯金口座參貳六番) 賣捌 全國各地書店

新佛教

第八卷第壹號（一月一日發行）要目

△第七卷總目次及合本用扉……結城蓄明
△現今の佛教……加藤弘文
△車窓の愁思……白柳秀湖
△唯一主義の二方面……廣井辰太郎
△豚寢日記……石川成章
△圓朝君の教訓……高島米峯
△寫生錄……伊藤政女
△支那の大乘と小乘……橘惠勝
△パン屑……幽月女史
△源語の厭世的……辰己小次郎
△新佛教七年史……境野黃洋
△論語と御一代聞書……柘植秀臥
△大宮孝潤君に與ふ……荻原雲來
△三萬の清國學生……古川流泉
△感應篇と陰騭文……島地大等
△演劇の新氣運……加藤咄堂
△佛教の革新……松本文三郎
△こぼれ松葉……藤井瑞枝子
△實學の工夫……忽滑谷快天
△殘燈錄……小林雨峯
△佛教の社會主義……舟橋水哉
△池上永壽院……林古溪
△讀『小泡十種』……大獅子吼林
△悼宮坂大眉君……螺蛤生
△倫理と宗教との關係……中島力造

一部郵稅共十一錢
半年分　六拾五錢
一年分　一圓廿五錢
切手代用一割增

發行所　東京市駒込片町一六　新佛教同志會
發賣所　東京市小石川原町六（振替貯金一三五三）　鷄聲堂書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此清心丹は全國到る所にあり

ニッケル罐入にてポッケト用に適す

清心丹

清心丹は四季欠くべからざる懷中要藥にして心神の鬱憂を散じ食物の消化を補ひ船車風土變更水あたり等の不快等に卓効あり

東京市元大坂町
高木與兵衛

旅行又は平常携帶に便利也

効能如神

麻病根治神劑

定價
一ケ月分 金壹圓五十錢
十五日分 金九十錢
一週間分 金四十五錢
三日分 金二十錢

全國無料送達
市内即刻配達ス

發賣本舖
東京市神田區皆川町
一志堂藥舖
電話本局三〇四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●齒科治療 自午前八時 至午後六時●

神田區須田町二十六番地

齒科醫 吉瀬才市郎

勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

◉眼科診察 毎日午前◉

京橋南佐柄木町五
(電話新三四五八) 川上眼科院

外科皮膚病 梅毒痔痳 外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

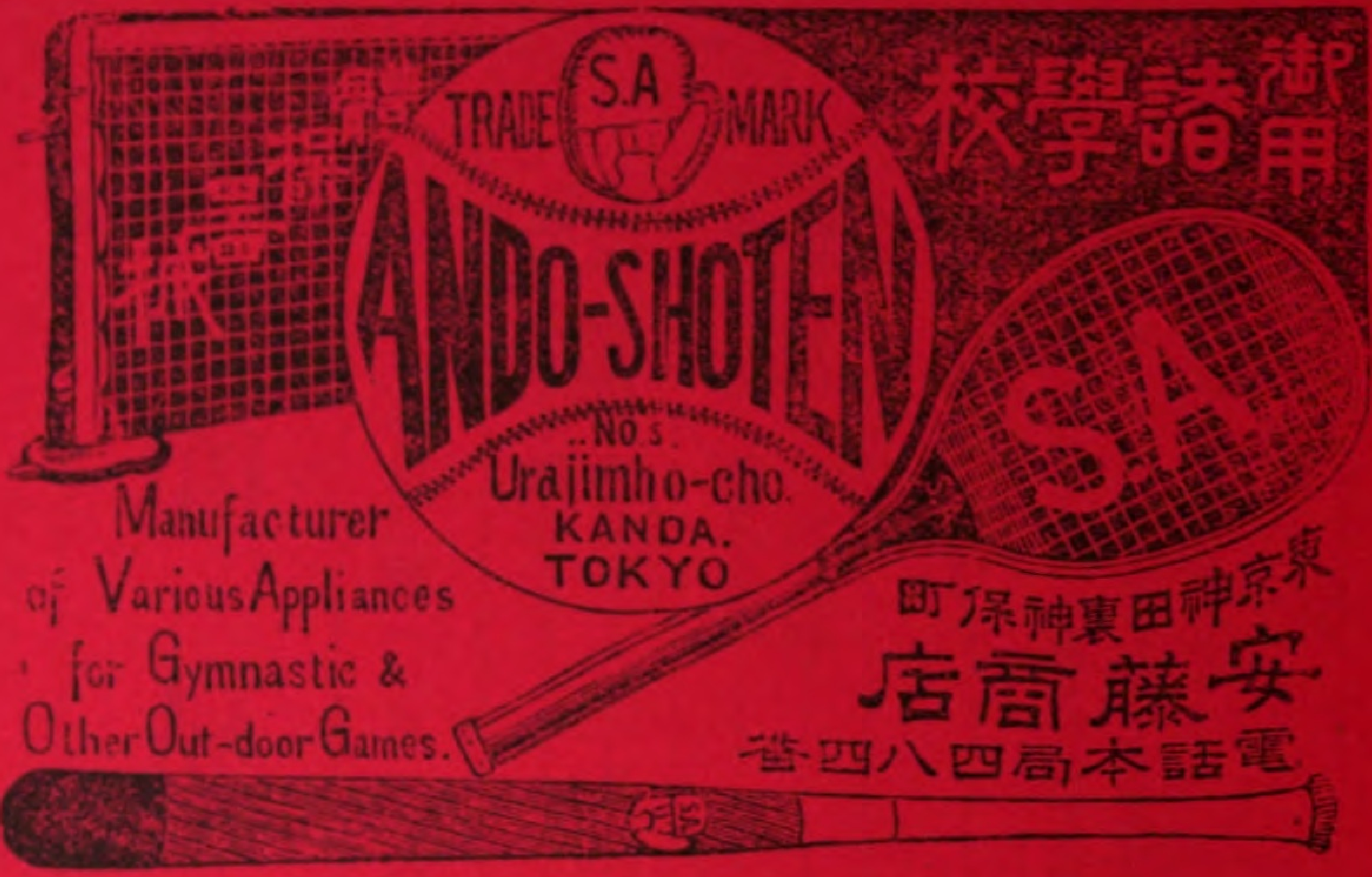
分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

產科婦人科

横濱市眞砂町二丁目廿六番地

朝長(ともなが)鷹二郎

診察毎日午前



改良ロンテニス二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

東京神田裏神保町五
S.A.安藤商店

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五五
二號	一張五間半	二、二五五
三號	一張六間	二、四五五
四號	一張七間	二、九五五

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町

安藤商店

電話本局四百八十四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜誌 **簡易生活**

一部價 八錢
三月分郵稅共 二十二錢
半年分同 四十二錢
一年分同 八十錢

◉第三號（一月一日發行）要目左の通り

▲禮服……上司小劍
▲煩雜なる敬語……田中珂川
▲予の簡易生活……佐治實然
▲犬儒ダイオゼニス……大杉榮
▲ワルデン トローの簡易生活……布旋知足
▲千利休の自然主義……白柳秀湖
▲怒濤と闇影……山口孤劍
▲一月の菜園……かせん
▲花の手入……久田二葉
▲ゾラ傳……正宗白鳥
▲かるた會の御馳走……田中たね子
▲簡易生活日記……上司雪子
▲肉食不必要……谷太平
▲理想の婦人……菅野須賀子

◉小說 **三寸**……上司小劍作

小劍創めて小說を書く。描く所は生活難の裏面にして、普通の人に比し身長の三寸ほど短き男が、其の三寸の爲めに世に容れられず、社會に用ゐられずして煩悶する狀態なり。本號揭ぐる所は、長篇の冒頭のみなれども、また一個の獨立したる短篇として見るの形を備へたり。

發行所 東京市芝白金三光町三九二 **簡易生活社**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

製造元

花島煉乳場

伊豆國三島町

○各位の家庭の花の一層美はしからんが爲に

○遠來の輸入品よりも新鮮なる內地製煉乳を薦む

發賣元

逸見山陽堂

東京日本橋區大傳馬町一丁目

(電話浪花二一五番)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

名譽銀牌受領

粉製 **赤罐入** 發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帶に便なり
能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし
遠征の士其他旅行用に適せり
定價一箇拾貳錢

● 發賣元

東京神田　小林富次郎
大阪博勞町　小林支店
清國天津　小林洋行